音楽科学習指導案

日　時　令和４年７月５日（火）
授業者　指導教諭　　金田　美奈子

１　題材名　　和音の移り変わりに合うせんりつをつくろう

（小学生の音楽６：教育芸術社）

２　題材の目標

和音の響きや和音の移り変わりと旋律との関わりについて理解し、それらの働きが生み出すよさや面白さを見いだしながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、自分の思いや意図に合った表現をするために、音楽の縦と横との関係を用いて旋律をつくることができるようにする。

３　指導事項との関連

Ａ表現(3)音楽づくり　ア(ｲ)　イ(ｲ)　ウ(ｲ)〔共通事項〕(1)ア

（本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」「和音の響き」「音楽の縦と横との関係」）

※本題材における「音楽の縦と横との関係」とは、「Ⅰ Ⅳ Ⅰ Ⅴ7 Ⅰ」の「和音の響き」とその移り変わり（和音進行）と旋律との関係を指す。

４　題材の評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
知 和音の響きや和音の移り変わりと旋律との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。	思①和音の響きや和音の移り変わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。	態 音楽の縦と横との関係を生かして音楽をつくる活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。
知 思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の縦と横との関係を用いて、音楽をつくる技能を身に付けて旋律をつくっている。	思②音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	

５　題材設定の理由

本題材では題材の導入時にトーンチャイムで主要三和音を演奏したり既習曲の「静かに眠れ」で「Ⅰ Ⅳ Ⅰ V7 （Ⅰ）」を演奏したりすることで、和音の響きや和音の移り変わりについて実感を伴いながら知覚・感受することができるようにする。次に音楽をつくる場面では、前時までに捉えた和音の響きやその移り変わりについて考えながら教科書から選んだ音と音を結び付けて即興的に旋律をつくる活動から、音楽の縦と横との関係を用いて自分の思いや意図をもって、まとまりのある旋律をつくっていく活動に深めていくことができるようにする。

このような活動を通して、自分の生活の中での音楽経験も踏まえて主体的・協働的に音楽をつくる力が育成されると考え、本題材を設定した。

６　教材について

「和音の音でせんりつづくり」

ハ長調の和音の構成音を使って、「Ⅰ Ⅳ Ⅰ V7 Ⅰ」と移り変わる和音の響きに合う旋律をつくる学習に適した教材である。和音の響きの移り変わりに合う音と音とを即興的につなげる活動から、リズムや音のつなげ方を工夫することによって、自分の思いや意図をもって音楽をつくる活動へと発展させることができる。このような学習を通して音楽の縦と横との関係が生み出すよさや面白さを理解することができると考える。

なお、本題材では、教科書の例示の中から「２分音符と同じ長さのリズムの例」と「ワークシート」を活用する。

７　題材の指導計画と評価計画（全４時間）

時	目標	○ 学習内容　・ 学習活動	評価　（評価方法）		
			知・技	思	態
第１時	和音の響きや和音の移り変わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える。	○和音の響きやその移り変わりの知覚・感受 ・Ⅰ Ⅳ Ⅴ V7 の和音をトーンチャイムでつくる。 ・それぞれの和音の響きの特徴について、感じたことを交流する。 ・「静かに眠れ」の１段目と２段目を歌い、和音の移り変わりをトーンチャイムで演奏する。 ・和音の響きの移り変わりに気を付けて、教科書の和音と低音をトーンチャイムで合奏する。		思① （発言、聴取、記述）	態 （発言、聴取、記述）
第２時（本時）	和音の響きや和音の移り変わりと旋律との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解する。	○和音の響きやその移り変わりと旋律との関わりの理解 ・和音の構成音から音を選び、即興的に２分音符の旋律をつくる。 ・つくった旋律を友達と聴き合い、和音の移り変わりに合った音のつなげ方になっているかどうか等、よさや改善点について伝え合う。 ・トーンチャイムの演奏をして、和音の響きやその移り変わりから感じたことを、交流する。 ・学習カードの和音の移り変わりを見な	知 （発言、聴取、記述）		態 （発言、記述）

		がら、どのような音のつなげ方をするとよいかを共有する。			
第３時	思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の縦と横との関係を用いて、音楽をつくる技能を身に付けて旋律をつくる。	○音楽の縦と横との関係を用いた旋律づくり ・「２分音符と同じ長さのリズムの例」を参考にして、同じ音でリズムをつなげる。 ・音のつなげ方を試しながら、旋律のリズムを工夫して、和音の移り変わりに合う音楽をつくる。 ・自分のつくった旋律が「続く感じ」なのか「終わる感じ」なのかを考える。	技 （聴取、記述）		態 （発言、記述）
第４時	和音の移り変わりに合う旋律の音を使って、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。	○全体のまとまりを意識した旋律づくり ・全体のまとまりがある音楽にするために、前半４小節が「続く感じ」、後半４小節が「終わる感じ」になるとよいことに気付く。 ・前半２小節は、と全く同じ、後半２小節を A は続く感じ、A'は終わる感じとなるよう調節しながら、AA'の旋律づくりをする。 ・トーンチャイムの和音進行に合わせて一人一人がつくった旋律を発表する。 ・つくった旋律のよさや面白さについて交流する。		思② （発言、聴取、記述）	態 （発言、聴取、記述）

８　本時（全４時間中の第２時）

(1)　本時の目標

和音の響きや和音の移り変わりと旋律との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解する。

(2)　本時の展開

時間	○学習内容　　・学習活動	☆ 指導上の留意点　配慮事項	□評価　（評価方法）
導入 １０分	○前時の振り返り ・トーンチャイムで和音を演奏したり和音の移り変わりを演奏したりする。	☆和音の移り変わりを知覚･感受することができるようにするために､演奏者と聴き手に分かれて活動する場を設定する。	
展開 ２５分	○本時のめあての確認 和音のひびきやその移り変わりに合う音を選んで、せんりつをつくろう。 ○和音の響きやその移り変わりと旋律との関わりの理解 【活動①】音楽室 ･和音の構成音から音を選び､木琴や鉄琴、キーボードで即興的に２分音符の旋律をつくる。 ･つくった旋律を友達と聴き合い、和音の移り変わりに合った音のつなげ方になっているかどうか等、よさや改善点について伝え合う。 【活動②】廊下 ･トーンチャイムの演奏をして､和音の響きやその移り変わりから感じたことを、交流する。 ・学習カードの和音の移り変わりを見ながら、どのような音のつなげ方にしたいかを共有する。	☆自分の進め方で和音の移り変わりを基にした旋律づくりをすることができるよう､２つの学習活動を並行して設定する。 ☆いろいろなつなげ方を試しながら､必要に応じて学習カードにメモをするよう指示をする。 ☆つくる過程で､友達と助言し合うことで協働的な学習ができるようにする。 ☆｢和音の移り変わりに合う旋律になっているか｣｢音のつなげ方は適切か｣という視点で聴き合うよう指示をする。 ☆和音の響きやその移り変わりについて交流する中で､和音の移り変わりと旋律との関わりが生み出すよさや面白さを理解することができるようにする。	
まとめ １０分	○振り返り ・和音の響きや和音の移り変わりと旋律との関わりについて、自分が考えたことをまとめる。	☆今日のめあてに焦点を当てた振り返りができるようにするために､教師の和音伴奏による数名の児童の作品を聴いてから､振り返りをまとめる場を設定する。	知　和音の響きや和音の移り変わりと旋律との関わりについて､それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。 （発言内容、演奏聴取、記述内容）